

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2011年3月号 通巻27号 毎月1日発行 購読無料

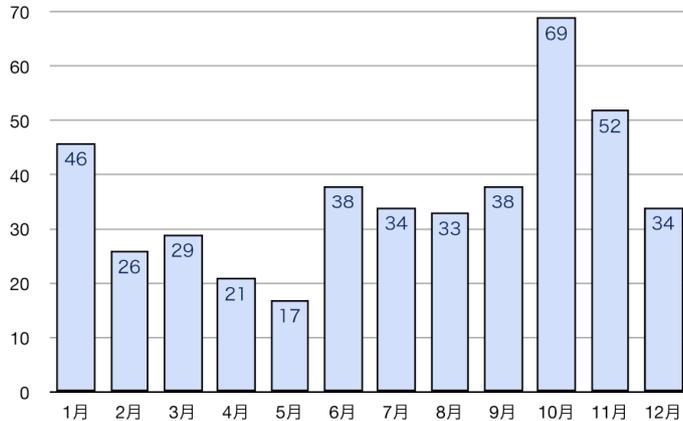
©MIYAMOTO Takumi,2011

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキはなぜ秋に多く目撃される

目撃情報から読み取るタヌキの生態

月別目撃件数(タヌキ)



タヌキの月別目撃件数のグラフ(2008~2010年の集計)。10月が最も多く、5月が最も少ない。これは偶然ではなく、タヌキの生態を反映している。

タヌキを目撃しやすい季節はあるのでしょうか。それがわかればタヌキ観察もやりやすくなるかもしれません。その答えは報告書「[東京都23区内のタヌキ、ハクビシン、アライグマの目撃情報の集計と分析\(2011年1月版\)](#)」にあります。上のグラフは報告書に掲載した月別目撃件数です。10月~11月が多く、2~5月は少なくなっています。これは400件以上のデータによる数字であり、偶然の結果ではありません。

秋は旅立ちの季節

10月~11月に目撃情報が多くなるのは、この時期に子どもたちが親から独立し、新天地をめざして分散していくからです。そのためタヌキがあちこちらに出現し、人間に目撃される確率が上がると考えられます。この時期には、今まで目撃情報がほとんどなかった地域でも目撃されることがあります。

その後、冬になると目撃数は少なくなります。これはタヌキの活動が

不活発になっていることを示唆しているのではないのでしょうか。タヌキは冬眠はしません。しかし、外出しない日があったり、行動時間が短くなったりなどの変化が起きているのではないかと推測されるのです。やっぱり寒いと外出はしたくないのでしょうか。それとも食べ物が少ないので体力を温存しているのでしょうか。

では、暖かくなった5月の目撃数が最も少ないのはなぜでしょう。東京都23区ではタヌキの出産は5月上旬前後のようです。この時期は出産・子育てのために両親の行動範囲が狭くならざるを得ないと推測されます。お母さんは赤ちゃんに乳を与えるために巣から離れられず、お父さんもお母さんを長時間放置するわけにもいかず、遠出しにくいのかもかもしれません。

6月後半になると、子どもたちは巣から出てきて徐々に行動範囲が広がります。6月以降、目撃件数が回復するのはそのためです。

このように、月別目撃件数からはタヌキの生態を読み取ることができるとは、冬から春にかけてはタヌキを見るには不適切ということがわかります。では秋は観察しやすいかという、タヌキはあちこちへと移動するので、定点観察は難しいでしょう。

ではハクビシンは…?

月別の目撃件数を分析することでタヌキの生態がわかりましたが、ではハクビシンではどうでしょうか。ハクビシンの目撃情報を集計すると、タヌキとはずいぶん異なる結果になったのです。続きは来月号で。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>